

2015 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
研究センター長名	谷 徹

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

今年度(2015 年度)は、昨年度(2014 年度)に採択された科研費プロジェクトと連動して、その重点研究目標である「制度の間文化性」を軸にした研究目標が設定されていた。

その具体的な研究展開に関しては、

- ①2014 年に急逝した世界的な先端的研究者であり、また本学でも 2 度講演をしていただいたラスロ・テンゲイ教授(ドイツ・ヴッパータール大学)を追悼し、その業績を回顧するための、直弟子インガ・レーマー氏による講演会、
- ②さらにやはり間文化現象学を中山大学(台湾・高雄)で展開しているマティアス・オーベルト氏による講演会、
- ③さらには、本プロジェクトと密接に連関する「フッサール研究会」を、本学において連続的に開催するという仕方、「間文化現象学シンポジウム」を 2016 年 3 月に開催し、研究発表、研究討議をつうじて、成果を共有した。

また、④公益財団法人・日独文化研究所と連携して、アナ・ホナッカー氏(ドイツ・ハノーファー哲学研究所)の講演会を 2015 年 10 月に開催した。さらに、⑤ダリン・テネフ氏(ブルガリア・ソフィア大学)の講演会を 2015 年 12 月に開催した。

さらに、⑥人文研紀要に、間文化現象学特集を組んで、これまでの研究成果の一部を公刊した。

また、⑦学内の間文化現象学研究会は継続的に研究活動を展開した。その成果のひとつとなるマーティン・ジェイ著 Downcast Eyes の翻訳事業は、今年度には完成しなかったが、着実に進行中である。

これらによって、今年度の研究目標は十分に達成されたと言えるだろう。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2016年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	谷 徹	文学部	教授	
運営委員	北尾宏之	文学部	教授	
	伊勢俊彦	文学部	教授	
	加國尚志	文学部	教授	
	林 芳紀	文学部	准教授	
	亀井大輔	文学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)				
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	池田裕輔	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍院生	松田智裕	文学研究科	博士後期課程三回生
		横田裕美子	文学研究科	博士後期課程三回生
		小田切建太郎	文学研究科	博士後期課程二回生
		酒井麻依子	文学研究科	博士後期課程一回生
	その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	神田大輔	文学部	非常勤講師
佐藤勇一		文学部	非常勤講師	
青柳雅文		文学部	非常勤講師	
小林琢自		文学部	非常勤講師	
田辺正俊		文学部	非常勤講師	
黒岡佳柁		文学部	非常勤講師	
客員協力研究員				
その他の学外者				

(他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員 計17名 (うち学内の若手研究者 計5名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2016年3月31日時点)

(1). 著書

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
該当無し							

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	亀井大輔	初期デリダとハイデガー——デリダのハイデガー講義(1964-65)をめぐって——	共著	2015年11月	現象学年報、日本現象学会、31号	加藤恵介、長坂真澄	PP 65-71	無
2	Daisuke Kamei	La democratie et la question de l'autre chez Derrida et Ranciere	単著	2015年6月	人文学報、首都大学東京、511号		PP 21-30	無
3	佐藤勇一	視角の狂気と眼差しの帝国——メルロ＝ポンティとジェイにおけるケプラーとデカルト	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP 65-91	有
4	横田祐美子	ジョルジュ・バタイユの盲目的視覚——マーティン・ジェイの視覚論を起点として——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP. 3~20	有
5	松田智裕	眼はなにを映し出すのか——デリダにおける視覚の限界性と生の記述をめぐって——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP. 21~38	有
6	田邊正俊	ニーチェと視覚をめぐる——考察——デカルト的遠近法主義とニーチェのペルスペクティヴィスムを手がかりとして——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP. 39~64	有
7	黒岡佳柁	ハイデガーの眼と耳——観ること、聴くこと、思索すること——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP. 93~116	有
8	青柳雅文	アドルノとライル——イギリス滞在期間におけるアドルノの現象学研究と分析哲学との接点——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、107号		PP. 131~156	有
9	谷 徹	文明・文化と「三」	単著	2015年4月	文明と哲学、公益財団法人日独文化研究所、7号		PP. 39~64	無
10	谷 徹	文明・文化と「四」	単著	2016年3月	文明と哲学、公益財団法人日独文化研究所、8号		PP.23~38	無

11	小田切建太郎	ヘルムート・フェッター『ハイデガーの見取り図』書評	単著	2016年3月	文明と哲学、公益財団法人日独文化研究所、8号		PP. 253 ~ 266	無
12	谷 徹	「あわい」と現象学	単著	2015年8月	情況、情況出版、第四期第四巻第6号		PP.93~107	無
13	Toru Tani	Japanese Phenomenology	単著	2015年9月	<i>Oxford Handbook Online</i> , Oxford University Press			無
14	小林琢自	国家の現実性と意味—尾高朝雄の現象学的存在論—	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP.135-161	有
15	小林琢自	キム・テヒ「生活世界的時間の危機—エトムント・フッサールの現象学的分析から—」翻訳	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		PP.163-191	有
16	小田切建太郎	ジョセフ.S.オレアリー「エルアイクニスにおいて存在はどうなってしまうのか？」翻訳	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、107号		PP.157~176	有
17	小田切建太郎	〈根源の場所〉と〈かまど〉——M.ハイデガーのヘルダーリン解釈をめぐる——	単著	2016年3月	立命館哲学、立命館大学哲学会、27集		PP.95~125	有
18	小田切建太郎	イプノスの傍らで——ハイデガーにおけるヘラクレイトスの〈かまど〉の意味について——	単著	2016年6月	倫理学研究、関西倫理学会、46号		PP.86~96	有
19	Yusuke IKEDA	Das Konzept der Phaenomenologie der transzendentalen Medialitaet bei Yoshihiro Nitta. Faktizitaet und ihre transzendental-mediale Funktion	単著	2015年5月	<i>Interpretationes</i> , Charles University Prague. No. 6.		PP.99~111	有
20	Yusuke IKEDA	Eugen Finks Kant-Interpretation	単著	2016年1月	<i>Horizon</i> . Saint-Petersburg State University, 4-2.		PP.154-185.	有
21	横田祐美子	パトリック・ロレット「人間の倫理は供犠的か：倫理の脱構築をめぐるデリダとレヴィナスの論争」翻訳	単著	2016年3月	『人文学報 フランス文学』、首都大学東京人文科学研究科、512-515号		PP. 141-165	無
22	黒岡佳征	共に住むこととしてのエートス——ハイデガーにおける他者と空間性の問題への試論——	単著	2015年11月	立命館文学、644号		PP.1~12	有
23	黒岡佳征	「確実性」を巡る対決——前期ハイデガーのデカルト批判	単著	2016年4月	哲学、67号		PP.216~230	有

(3). 研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Toru Tani	Awai - the Japanese concept of betweenness	2015年4月	Phenomenology and Oriental Philosophy, 中山大学、広州、中国	
2	佐藤勇一	ミシェル・アンリ哲学における宗教思想としてのカフカ	2015年6月	ミシェル・アンリ哲学会、第7回大会、学習院大学	
3	青柳雅文	最初期ホルクハイマーの思	2015年5月	日本哲学会 第74回大会、上智大学	

		想形成——コルネリウス、レーニンとの関係を手がかりとして			
4	Yusuke IKEDA	Contingence et necessite du monde selon Husserl et Fink – Perspectives phenomenologiques	2015年4月	Phenomenologie a l'oeuvre: Allemagne-France-Japon 関西学院大学	
5	Yusuke IKEDA	La nouvelle phenomenologie française? Le phenomene dans son evenementialite selon Neue Phaenomenologie in Frankreich (1) et (2)	2015年9月	Special Lecture 国立研究大学高等経済学院 モスクワ、ロシア	
6	Yusuke IKEDA	Kant-Interpretation bei Eugen Fink	2015年9月	Classical German Idealism and Phenomenology 国立サンクト・ペテルブルク大学、サンクト・ペテルブルク、ロシア	
7	Yusuke IKEDA	The Origin of Sensibility and Understanding in its Temporal Dimension - With special regard to Husserl and Fink.	2015年9月	Special Lecture 国立研究大学高等経済学院 モスクワ、ロシア	
8	池田裕輔	フィンの世界根源の現象学	2015年11月	日本現象学会 第37回研究大会 同志社大学	
9	池田裕輔	ラスロ・テンゲイと現象学的形而上学 (ワークショップ「現象学の新たな展開—現象学的形而上学 ラスロ・テンゲイ遺作『世界と無限』をめぐって」での提題)	2015年11月	日本現象学会 第37回研究大会 同志社大学	長坂真澄、景山洋平
10	Yusuke IKEDA	La phenomenologie transcendante et le phenomene dans son evenementialite – reflexion preliminaire	2015年11月	Phenomenology of “elsewhere” プラハ・カレル大学 チェコ共和国 (明治大学との共催)	
11	Yusuke IKEDA	L'horizon en tant que metaphore philosophique – Reflexion phenomenologique autour des concepts d'horizon et monde chez Husserl	2016年3月	Seminaire “Mesologiques” 社会科学高等研究院、パリ、フランス	

(4). 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	間文化現象学シンポジウム「制度化」	衣笠キャンパス	2016年3月	50名	

(5). その他研究活動 (報道発表や講演会等)

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	アナ・ホナッカー	不確実な可能性にもとづく生	間文化現象学講演会 (共催・公益財団法人日独文化研究所)、衣笠キャンパス	2015年10月
2	ダリン・テネフ	翻訳の現象学に向けて	間文化現象学講演会、衣笠キャンパス	2015年12月
3	インガ・レーマー	カントから現象学的形而上学の問題へ——ラスロ・テンゲイを追悼して	間文化現象学講演会、衣笠キャンパス	2016年3月
4	マティアス・オーベルト	台湾における間文化的な哲学遂行	間文化現象学講演会、衣笠キャンパス	2016年3月

(6). 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

(7). 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	加國尚司	「間文化性の理論的・実践的探求——間文化現象学の新展開」	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	代表者
2	伊勢俊彦	命を与える・命をもらう関係にかんするフェアネスと個性性の観点からの哲学的研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表者
3	亀井大輔	遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表者

(8). 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
該当無し						

(9). 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								